

私たちが長い間、これだけは絶対不起きてはいけないと信じ、守り続けていたことが、目の前で悪夢のように起きてしまった。弱者に対する武力による侵略、そして戦争、略奪がテレビの画面を通して目の前で起こり、われわれはなすすべもなく、世界の共通モラルと良識はもろく崩れ去った。

国連の介入はロシアの拒否権で否決され、中国やインドは棄権した。私自身、これほど国連が無力に感じたことは今までになかったように思う。北大西洋条約機構(NATO)の無責任さにも憤りを感じているのは私だけだろうか。われわれは罪のない善良なウクライナ人たちを見殺しにしているのではないか。

× × ×

新型コロナウイルスは、一時、変異株のオミクロン株の蔓延がピークを越えたかのように思えたが、その後、オミクロンの派生型「B.A.2」による置き換わりが影響してか、日本では下り坂が続いていると聞いている。同様にタイでも、2月1日に

長い間、人々を抑圧してきた社会主義から自由を手に入れ、それを享受していたウクライナ



アジア自立支援機構代表理事

小沼 廣幸

## 感染禍の経験の子孫へ

の受け入れ政策に転じたのが影響してか、その後感染者数が急増し2月27日には24700人にまで増えた。

バンコクだけだと政府発表で1日当たりの新規感染者数が2700人前後で落ちている。

だが、タイ人たちの話では、この数は信じられないという。バンコクに住んでいると至るところでクラスター(感染者集団)の話が聞く。私が仕事をしているオフィスビルだけでも、先週は1日に6、7人の新規感染者が連日出ていた。

オミクロンの派生型が広まっているのうわさだが、正式なデータはない(多分調べる技術者や解析する機材が不足している)ので正確なところは分からない。

新型コロナウイルス禍はこれからどうなるのだろうか。こうした新変異種やその派生型が繰り返し発生し、1年後、遅くとも2、3年後には終息すること

「分かち合う世界へ」は、ホームページ「新潟日報デジタルプラス」の「オピニオン・視点アジア」でも読むことができます。

や100年ぐらいのサイクルで、繰り返しやってくるだろうということだ。

そして、新しく発生する伝染病の7割は動物が起源だということである。気候変動や生態系の変化、自然環境破壊等によるストレスが、動物たちの健康に異常をきたし、新たな伝染病が生じ、人間がそれに感染する。新型コロナウイルス禍から得た貴重な経験と英知を、将来のわれわれの子孫に確実に受け継いでゆけるようにしたいと思う。

4年以上の間、続けさせて

いただいたこの欄への執筆だが、事情により今回が最後となった。心温まるコメントや励ましのメッセージをいくつもいただいた。長い間、お付き合いをいただき心からお礼を申し上げます。

(おわり)

こぬま・ひろゆき 1953年、東京都生まれ。明治大卒。筑波大大学院博士課程前期修了。博士(農学)。元国連食糧農業機関(FAO)事務局長補兼アジア太平洋局

長。元明治大学特任教授。2017年にタイ王冠勳章を受章。18年、一般社団法人(非営利)アジア自立支援機構を設立。両親、妻は本県出身。茨城県、バンコク在住。